

令和5年 第2回 大仙市議会定例会

# 市 政 報 告

令和5年5月30日

大仙市長 老 松 博 行

令和5年第2回大仙市議会定例会にあたり、諸般の状況について申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症への対応についてであります。

国内で初めて感染者が確認されてから3年余り続けてきた新型コロナウイルスとの闘いは、5月8日の感染症法上の分類引き下げをもって大きな区切りを迎えております。この間、8回にわたる感染拡大の波を経験しておりますが、未知なるウイルスの脅威と対峙し、現場の最前線で感染対策にご尽力されてきた医療関係者の皆様、コロナ禍でも私たちの生活を献身的に支えていただきました全てのエッセンシャルワーカーの皆様に、改めて心から感謝を申し上げます。また、この3年間、様々な制限や制約が求められる中、辛抱強く感染対策にご協力いただきました市民の皆様にも感謝を申し上げます。

この見直しにあわせ、国や県の新型コロナウイルス感染症対策本部が廃止されるとともに、感染対策は個人の自主的な判断とされたほか、検査や外来診療の費用が自己負担となるなど、感染対策の方針が大きく変わっております。本市においても、5月8日付けで「大仙市新型コロナウイルス総合対策本部」を廃止したところであります。

しかしながら、ウイルスが完全に消滅したわけではなく、いまだ感染者が確認されているほか、第9波が発生する可能性も指摘されております。

す。市民の皆様におかれましては、引き続き場面に応じた換気やマスク着用など、基本的な感染防止対策に努めていただきますようお願いいたします。市といたしましては、国や県と連携を図りながら市民の皆様が適切に判断し、行動することができるよう、今後も正確な情報の提供に努めるとともに、この3年間で蓄積した知見をもとに、次なる感染の波にしっかりと備えてまいりたいと考えております。

この春に開始されたワクチン接種につきましては、市内10カ所の医療機関における個別接種に加え、5月27日の大綱交流館を皮切りに、順次、市内8カ所に特設集団接種会場を開設することとしており、重症化リスクが高い65歳以上の高齢者等を対象に接種を実施しております。今後も、流行期に備え、希望する市民の皆様が速やかに接種できるよう、大曲仙北医師会や大曲厚生医療センターをはじめとする関係機関と連携を図りながら、接種を進めてまいります。

これまでの日常が大きく様変わりする中、様々な行祭事やイベントがコロナ前の規模、内容で再開されるなど、社会経済活動が活発化してきており、消費拡大と回復傾向にあるインバウンドの増加により4.2兆円の経済効果が見込まれるとの試算もあるようであります。市といたしましても、機を逸することなく動向を的確に捉えながら、本市が有する多くの魅力を積極的にPRするとともに、こうした需要を取り込める

よう様々な取組を進めてまいりたいと考えております。市民をはじめ市内外の多くの皆様には、場面に応じた感染防止対策に引き続きご協力いただきながら、コロナ禍から解放された新たな日常において、大仙市を大いに満喫していただきたいと思っております。

こうした動きに先駆けるかたちで、「大曲の花火～春の章～」が4月29日に開催されております。本大会では、全国から集まった新進気鋭の若手花火作家20人が創造性や芸術性を競ったほか、カナダからお招きした花火業者の演出による「世界の花火と日本の花火のコラボレーション花火」など、約8千発の花火が春の夜空を鮮やかに彩り、訪れた多くの観客の皆様を魅了しております。

これにあわせて、丸子のこみちを中心にナイトマーケットが行われたほか、はなび・アムでの特別企画展や花火にまつわるスポットを巡る「健幸はなびウオーキング in 春の章」など、バラエティに富んだ催し物が開催されております。

また、インバウンド誘客の推進と「大曲の花火」の海外展開に向けた取組の一環として、4月23日からマルタ共和国で開催された「第18回国際花火シンポジウム」に参加しております。シンポジウムでは、

「大曲の花火」実行委員長である大曲商工会議所齋藤靖会頭による事例発表と、横手高校3年生の久米川華<sup>かのん</sup>さんによる研究発表が行われたほか、市内花火業者が展示商談会へ出展しており、世界各国の花火

関係者に向けて「大曲の花火」を大々的にPRしております。こうした取組を通じ、海外でのさらなる知名度向上を図るとともに、令和10年に第100回の記念大会を迎える全国花火競技大会「大曲の花火」の節目にあわせ、春の章へのシンポジウム誘致を目指してまいります。

5月3日には「第147回秋田犬保存会本部展」が大曲市民会館第2駐車場を会場に開催されております。県南で初の開催となった本部展では、国内外から153頭の秋田犬が集結し、容姿の美しさを競ったほか、歓迎花火の打ち上げやキッチンカーの出店などの協賛イベントを行っております。当日は天候にも恵まれ、関係者のご協力のもと、秋田犬の愛好家やファンなど大勢の来場者にお楽しみいただいております。

「有事」から「平時」への着実な移行が進む中、足下ではエネルギー価格の上昇や物価高騰があらゆる場面に影響を及ぼしております。こうした影響がコロナ禍からの復興の足かせとならないよう、市民の皆様の暮らしや地域経済を下支えする経済対策にもしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。先の市議会臨時会において議決いただいた物価高騰の影響を受け、困難な状況にある方々への支援や「配合飼料高騰対策支援事業」などを進めておりますが、現在、追加の対策を検討しているところであり、準備が整い次第、追加提案として今次定例会に関連する予算の補正をお願いしたいと考えております。

次に、主な部局ごとに諸般の報告を申し上げます。

はじめに、総務部関係についてであります。

老朽化に伴い検討が必要となっている市役所庁舎の整備につきましては、庁舎の在り方や機能を総合的に調査し、検討を行うため、4月1日付けで、佐藤副市長を統括とし、庁内を横断する「庁舎整備検討会議」を設置しております。本会議では、庁舎の改修や建て替えに止まらず、少子高齢化の進行やDXの進展など社会環境の変化に対応するとともに、コロナ禍を経て変容した価値観や多様化する市民ニーズ等を踏まえつつ、多角的に検討を行うこととしております。今後、本会議において議論を深め、一定の方向性がまとまり次第、議員各位にご説明させていただきたいと考えております。

次に、企画部関係についてであります。

秋田新幹線新仙岩トンネルの整備促進につきましては、5月18日、秋田県と秋田新幹線新仙岩トンネル整備促進期成同盟会との共催により「秋田新幹線新仙岩トンネル整備促進大会」を開催しております。当日は関係者約200人の出席のもと、JR東日本から調査の進捗状況等についてご講演をいただいたほか、沿線地域でご活躍されている2名の方からトンネル整備への期待などについて意見を発表していただいております。大会の最後には、一日も早い整備の実現に向けて沿線の結束

を強化し、一体となって活動を展開していくことを旨とする大会宣言を行っており、さらなる機運高揚の機会になったものと捉えております。

「若者チャレンジ応援プロジェクト」につきましては、挑戦する若者の総合的なサポート等を担う「だいせんL a b o」において、起業をはじめとする様々な相談を受け付けており、3月末までに延べ135人の皆様から利用をいただいております。市内企業や金融機関、商工団体、大学など多様な主体の皆様のご協力のもと、伴走型のサポートを展開しており、10件の成果につながっております。また、若者チャレンジ応援補助金については、昨年度、4件の事業提案を採択しており、挑戦する若者の後押しになったものと捉えております。現在、今年度の提案を募集しているところであり、引き続き若者が活躍できる機会の創出と地域全体でチャレンジを応援する環境づくりに取り組みながら、地域の元気と若者の地元定着につなげてまいりたいと考えております。

次に、市民部関係についてであります。

地球温暖化防止対策につきましては、「ゼロカーボンシティだいせん」の実現に向けた行動指針となる「大仙市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定を進めているところでありますが、本計画の策定と並行し、前倒しが可能な取組についてはスピード感をもって実施してまいりたいと考えております。現在、脱炭素意識の醸成や省エネ

設備等の普及促進に向けた取組の検討を進めているところであり、準備が整い次第、追加提案として今次定例会に関連する予算の補正をお願いしたいと考えております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

「健幸まちづくりプロジェクト」につきましては、新規参加者を対象としたクオカードの進呈や健幸ポイントプログラムを実施しているほか、ウォーキングイベントや各種イベント等と連携した取組の準備を進めているところであり、引き続き参加者の拡大と継続した健康づくりを促進してまいります。また、現在、61箇所の健幸スポットを含め、市内の98箇所の健幸拠点で活動量計データの送信が可能となっており、拠点のさらなる拡充を図りながら、健康寿命の延伸と地方創生の実現に向けた次なる取組に結びつけていくため、参加者の皆様に活動量計データの送信を呼びかけてまいります。

母子保健事業につきましては、母子手帳アプリ「すくすくはなび」の機能を拡充し、この4月に運用を開始しております。オンラインによる各種イベントの参加予約やアンケートなどへの回答が可能となっており、5月24日現在、同アプリのダウンロード数は2,498件で、妊婦相談の約6割がアプリを通じたオンライン予約を利用しております。



次に、農林部関係についてであります。

水田の春作業につきましては、4月以降、温暖な日が続いたことから田植え作業が順調に進捗し、5月22日に最盛期を迎えております。今後も生育が順調に進むよう、県やJA等関係団体と連携して肥培管理の徹底などを呼びかけてまいります。

また、昨年本格デビューした「サキホコレ」につきましては、令和5年度において市内の137経営体が生産者登録を行っており、204ヘクタールに作付けをしております。本年産米についてはシンガポールへの輸出が予定されており、全国的にブランド米が続々と誕生し産地間競争が激化する中、全国有数のコメ産地として、秋田米最上位品種であるサキホコレのブランド化を推進してまいります。

スマート農業の推進につきましては、農研機構東北農業研究センターやクボタグループとの連携により、GPS衛星と補正情報配信システムを活用した、高精度自動操舵付きトラクタによる水稻無コーティング種子の直は実証栽培に取り組んでいるほか、県や秋田県立大学と連携し、農業用ドローンを活用した水稻直は栽培の実証を進めております。

また、4月26日には、クボタグループのご協力のもと、農業後継者の育成を目的に、西仙北地域大沢郷宿地区において新規就農者や女性農業者等を対象とした農業機械・農作業安全研修会を開催しており、関係者を含め40人が座学やトラクタの実技研修を受講しております。

G P S衛星等を活用し、農業用機械の位置情報を高精度に補正するR T K基地局につきましては、西部地区のスマート農業の基盤として西仙北地域に設置を進めており、6月1日から供用を開始する予定としております。東部地区においては、仙北平野土地改良区が太田地域に基地局を設置する計画を進めており、令和6年度中には概ね市全域で利用できる環境が整う予定となっております。生産現場では担い手の高齢化や労働力不足が深刻となっていることから、省力化・低コスト化につながるスマート農業の実践と普及をさらに推進してまいります。

大豆産地化推進事業につきましては、生産技術の高位平準化に向けた取組や団地化、ブロックローテーションの推進に取り組んでおり、本年度の栽培面積は昨年度より35ヘクタール多い1,455ヘクタールとなる見通しとなっております。今後も関係機関と連携しながら収量や品質の向上につながる取組を促進し、産地化を進めてまいります。

林業振興につきましては、森林資源の循環利用や担い手の確保など本市における林業の課題解決に向け、森林林業の専門的な知識を有する専門監を4月に配置しております。また、市内の多くの森林が主伐期を迎えていることを踏まえ、再生林のモデル事業として、市有林において保育・間伐等の適切な施業と伐採・造林の一貫作業による植栽事業を実施しており、森林再生支援事業の拡充とあわせ、その効果を示しながら民有林における再生林の取組を促進してまいります。

次に、経済産業部関係についてであります。

ハローワーク大曲管内の本年3月に卒業した高校生の就職状況につきましては、卒業者824人のうち239人が就職し、就職希望者の就職率は99.6パーセントとなっております。このうち、県内就職者は188人で、県平均よりも1.5ポイント高い78.7パーセントとなっており、引き続き高い水準で推移しております。こうした地元志向の高まりをチャンスと捉え、これまで実施してきた求人票の早期提出要請などの取組に加え、今後は若者の就業継続に向けた職場定着セミナーを実施するなど、若者の地元定着をより一層推進してまいります。

創業支援事業につきましては、昨年度、2年連続で過去最多となる22件を支援しており、創業機運の高まりが続いております。大曲地域で17件、中仙地域で3件、仙北地域と太田地域で各1件の実績となっており、引き続き関係機関と連携を図りながら、地域経済の回復に向けた起爆剤の一つとして、さらなる機運の醸成に努めてまいります。

次に、観光文化スポーツ部関係についてであります。

スポーツを通じた地方創生や市民の皆様の健康増進の拠点となる「多目的人工芝グラウンド」につきましては、7月の供用開始に向け順調に工事が進捗しております。これにあわせ施設の愛称を募集したところ、市民や企業の皆様、学校などから223件の応募をいただいた

ほか、完成前にもかかわらず、各方面から多数の問い合わせをいただいております。現在、オープニングイベントの準備を進めているところであり、市民をはじめ多くの皆様に親しまれ、大いに活用される本市を代表するスポーツ施設となるよう運営にあたってまいります。

「第5回全国500歳野球大会」につきましては、7月15日から3日間の日程で、県外の26チームを含めた32チームによるトーナメント戦の開催準備を進めております。県内外から多くの皆様をお迎えするこの機を捉え、本市の文化や観光など様々な魅力に直接触れていただき、交流人口の拡大と地域の活性化につなげてまいります。

文化財の保護・活用につきましては、太田地域出身の仏画家 鈴木空如の生誕150年を記念し、太田文化プラザを会場に4月29日から5月14日までの期間で、特別展「生誕150年 鈴木空如展」を開催しております。これに関連する企画展として、美郷町学友館において「鈴木空如の画業を支えた人々」が開催されたほか、宮城県多賀城市で開催されている東日本大震災復興祈念「悠久の絆 奈良・東北のみほとけ展」に本市が所蔵する作品を出陳しております。今般、その画業の顕彰と本市の歴史文化ツーリズム推進の一環として、同氏が広く世に知られるきっかけとなった舞台である法隆寺のご協力のもと、境内の聖徳会館において特別展示を開催する機会を得たところであり、今次定例会に関連する予算の補正をお願いしております。

市所有の温泉施設につきましては、先にお示しした「公共温泉施設の今後のあり方」の基本方針に基づき、電気料金等の高騰により厳しさを増す温泉施設の安定的かつ持続的な運営に向け温泉利用料を改定することとしており、今次定例会に関係条例の改正をお願いしております。

太田地域の中里温泉につきましては、今般、改築に係る実施設計が完了したことから、本日の本会議終了後、議員全員協議会において概要をご説明申し上げるとともに、準備が整い次第、追加提案として今次定例会に改築工事に係る予算の補正をお願いしたいと考えております。

次に、建設部関係についてであります。

「雄物川改修整備促進期成同盟会」、「国道13号大曲・秋田間整備促進期成同盟会」並びに「高規格道路本荘大曲道路整備促進期成同盟会」につきましては、5月10日に通常総会を開催し、今年度の事業計画等が承認されております。引き続き構成団体等と連携を図りながら、重要な社会基盤である道路や河川の着実な整備に向け、関係機関に対する要望活動を積極的に行ってまいります。

次に、教育委員会事務局関係についてであります。

学校の再編につきましては、少子化により児童生徒数の減少が進み、複式学級への移行や部活動等への影響が顕在化するとともに、学校施設

の老朽化が顕著となってきたことを踏まえ、これまで教育委員会事務局を中心に検討を進めてきたところであります。しかしながら、空き教室を活用する放課後児童クラブや多くの児童生徒が所属するスポーツ少年団のほか、学校と地域の連携による地域づくりの視点も加える必要があると判断し、4月1日付けで、市長部局を加え、教育委員会事務局長を統括とする「学校再編市内検討会議」を設置しております。本会議では、人口の動向はもとより、GIGAスクール構想をはじめとした教育現場を取り巻く環境の変化を踏まえつつ、本市の未来を担う子ども達にとってより良い教育環境の実現を最優先に市全体の学校配置について総合的に調査し、適正な配置の在り方を検討してまいります。

将棋界の8大タイトルの一つであり、最高位とされる竜王の座を争う「第36回竜王戦」につきましては、その第6局が、タイトル保持者である藤井聡太竜王と挑戦者を迎え、12月6日から7日にかけて、国登録有形文化財 旧本郷家住宅を会場に開催されることが決定しております。タイトル戦が本市で開催されるのは初であり、大仙市民交流将棋大会実行委員会と連携して運営のサポートにあたりるとともに、この機を捉え様々な交流事業や、いわゆる「勝負めし」に着目した食のプロジェクトなどを通じて本市の魅力を積極的に発信し、文化観光の振興と地域の活性化につなげてまいりたいと考えており、準備が整い次第、追加提案として今次定例会に予算の補正をお願いしたいと考えております。

最後に、令和4年度の一般会計、特別会計及び企業会計の決算概況について申し上げます。

一般会計につきましては、令和4年度の市税収入が当初の見込みを上回ったことに加え、低所得世帯への支援をはじめとする物価高騰対策経費等の財政需要が特別交付税に反映されたことなどから、歳入が増加しており、昨年度に続き黒字決算となる見込みであります。

一方で、現下のエネルギー・原材料価格の高騰により、需用費をはじめとした経常経費が全体的に上昇していることなどから、令和5年度への繰越額は、前年度と比較して縮小するものと見込んでおります。

また、国民健康保険事業特別会計をはじめとする特別会計につきましては、全会計において実質収支がゼロ、または黒字となる見込みであるほか、企業会計の収益的収支における純利益は、市立大曲病院事業会計で約2,000万円、水道事業会計で約1億3,000万円、簡易水道事業会計で約1億6,000万円、下水道事業会計で約6億円となる見込みであります。

以上、諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げまして、市政の報告とさせていただきます。

別添

令和5年第2回大仙市議会定例会

## 市政報告（諸般の報告）

令和5年5月30日

大 仙 市



## 目 次

### 【健康福祉部】

- 1 予防接種事業について ..... 1
- 2 食育の推進について ..... 1

### 【農林部】

- 3 農業経営体の育成について ..... 1
- 4 園芸メガ団地について ..... 1
- 5 大仙市産日本酒ブランドの確立に向けた取組について ..... 1
- 6 鮭の稚魚放流式について ..... 2
- 7 クマの出没について ..... 2

### 【観光文化スポーツ部】

- 8 春の観光イベントについて ..... 2
- 9 観光情報センター改修事業について ..... 2
- 10 友好都市との交流について ..... 2
- 11 歴史文化施設の公開について ..... 3
- 12 仙北健康広場テニスコートについて ..... 3

### 【建設部】

- 13 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業（国）について ..... 3
- 14 国道関係事業について ..... 3
- 15 県道関係事業について ..... 3

### 【教育委員会】

- 16 東部学校給食センターについて ..... 3

### 【上下水道局】

- 17 上水道事業について ..... 4
- 18 簡易水道事業について ..... 4
- 19 下水道事業について ..... 4

### 【経済対策】

- 20 物価高騰対策 5月臨時会 ..... 4

## 【健康福祉部】

### 1 予防接種事業について

予防接種事業につきましては、合併症による重症化を予防するため、発症リスクが高まる50歳以上の方を対象に、今年度から带状疱疹予防接種費用の助成を行っており、5月25日現在で156人の申請を受け付けております。

### 2 食育の推進について

食育の推進につきましては、就学に向けた生活習慣等を確認する機会となっている5歳児相談会の参加者を対象に、朝食の大切さを理解し、摂取を習慣化していただくことを目的に、今月からぬり絵形式の「朝ごはんカード」を配布しております。

## 【農林部】

### 3 農業経営体の育成について

農業経営体の育成につきましては、農業法人・施設利用組合に対する生産機械等の導入支援や、農業分野における起業に向けたビジネス塾の開講など、意欲ある若手経営者を応援する取組を進めております。

### 4 園芸メガ団地について

中仙地域の園芸メガ団地につきましては、6月下旬の初出荷に向け、4月28日から5月8日にかけてトマトの定植作業が行われたほか、アスパラやネギ、オクラなどの複数品目による収益の向上を目指した取組が進められております。

大曲地域内小友地区のネギのサテライト型メガ団地につきましては、4月29日に定植作業が始まっており、あわせて4.8ヘクタールへの作付けが予定されております。

### 5 大仙市産日本酒ブランドの確立に向けた取組について

市内酒米生産者と5つの酒蔵の協力のもと、秋田大学の学生が米づくりから仕込み、販売までを手掛けた日本酒の統一ブランド「宵の星々」につきましては、継続して実施しているSNS等を通じた情報発信の効果もあり、販売が好調と伺っております。今年度も取組を継続し、5月26日に田植えを終えたとのことであり、引き続き産学官の連携を図りながらブランド化に取り組んでまいります。

## 6 鮭の稚魚放流式について

4月13日、コロナ禍で参加を見合わせていた花館、四ツ屋、内小友及び神岡小学校の児童が参加し、玉川橋下流右岸において鮭の稚魚放流式が開催され、約5万尾の放流を行っております。鮭資源等確保活用事業による同日までの放流尾数は210万4千尾となっており、令和3年度の記録的な不漁により82万尾に止まった昨年度から大きく回復しております。今後も地域文化である鮭漁の継承と鮭資源の安定的な確保に取り組んでまいります。

## 7 クマの出没について

クマの出没につきましては、5月29日現在、37件（大曲10件、神岡4件、西仙北9件、中仙3件、協和10件、南外1件）の目撃情報が寄せられております。今後、クマの活動が活発化する季節となることから、引き続き市民の皆様にご注意喚起を行うとともに、必要な対策を講じてまいります。

### 【観光文化スポーツ部】

## 8 春の観光イベントについて

大仙の春を彩る桜の開花にあわせ、各地域で観桜会や桜まつりが開催されております。今年は例年になく早い開花となりましたが、訪れた多くの皆様から市内一斉に咲き誇る満開の桜をお楽しみいただいております。

## 9 観光情報センター改修事業について

JR大曲駅に併設する大仙市観光情報センター1階のふれあい広場改修工事につきましては、7月末の完成に向け、工事が順調に進捗しております。

## 10 友好都市との交流について

友好都市との交流につきましては、5月4日、後藤議長をはじめ9名が神奈川県座間市で開催された「大風まつり」に参加し、「大曲の花火」昼花火の打ち上げや市の特産品販売を通じて本市をPRしております。また、4月22日から3日間の日程で、刈和野大綱引保存会の会員を含む8名が、韓国唐津市で開催された「機池市綱引き祭り」に参加しており、「綱引き」という共通の伝統文化を通じて交流を深めております。

## 11 歴史文化施設の公開について

本市の歴史文化施設である「旧池田氏庭園」「払田柵跡」「川のまち歴史交流の杜」の3施設が、4月29日に公開を開始しております。このうち旧池田氏庭園については、4月14日から3日間におたり無料公開を行っており、市内外から378人の皆様に来園をいただいております。

## 12 仙北健康広場テニスコートについて

仙北健康広場テニスコートにつきましては、昨年度から進めてきた増設工事が完了し、この4月に供用を開始しております。4面の人工芝コートにナイター設備を備えており、快適で利便性の高い施設として、連日、市民をはじめ多くの皆様に利用をいただいております。

### 【建設部】

## 13 雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業（国）について

雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業につきましては、一部工事が残っているものの、令和4年度をもって概ね完了したと伺っております。また、雄物川中流部河川改修事業につきましては、引き続き河道掘削などを実施すると伺っております。

## 14 国道関係事業について

昨年度に引き続き、協和地域の国道46号稲沢地区の歩道整備事業を実施すると伺っております。

## 15 県道関係事業について

秋田県無電柱化推進計画事業として、県道大曲大森羽後線の丸の内町工区における電線共同溝整備工事の詳細設計を実施すると伺っております。

### 【教育委員会】

## 16 東部学校給食センターについて

令和4年度に改修工事を完了した中仙学校給食センターにつきましては、名称を東部学校給食センターに改め、中仙地域に加え、新たに太田地域の小中学校4校に給食を提供しております。

## 【上下水道局】

### 17 上水道事業について

上下水道事業につきましては、水道水の安定的な供給を図るため、引き続き、大曲地域のあけぼの町、東川字前田表地内などにおいて老朽化した配水管の改良工事を進めてまいります。

### 18 簡易水道事業について

簡易水道事業につきましては、大曲地域内小友中山地区の水道未普及地域を解消するため、「南外字大畑潜沢地内」に配水ポンプ場を整備してまいります。また、刈和野地区において配水管の更新、改良事業に着手する予定としており、施設の健全化を図りながら水道水の安定供給に努めてまいります。

### 19 下水道事業について

大曲地域の管渠改築工事につきましては、6月下旬の発注を予定しております。また、西仙北地域川里地区農業集落排水の処理施設、及びマンホールポンプ施設における機械・電気設備等改修工事につきましては、6月下旬の発注を予定しております。

## 【経済対策】

### 20 物価高騰対策 5月臨時会

#### (1) 住民税非課税世帯への支援事業

令和5年度の住民税非課税世帯等に対し、1世帯あたり3万円を給付するもので、7月下旬の支給通知書発送に向け準備を進めております。

#### (2) 住民税均等割のみ課税世帯への支援事業

令和5年度の住民税均等割のみの課税世帯に対し、1世帯あたり3万円を給付するもので、7月下旬の支給通知書発送に向け準備を進めております。

#### (3) 子育て世帯生活支援特別給付金支給事業

児童扶養手当受給世帯、または令和4年度の住民税非課税世帯等に対し、児童1人あたり5万円を給付するもので、5月2日から申請を受け付けており、5月31日に児童899人分の支給を予定しております。

#### **(4) 配合飼料高騰対策支援事業**

令和4年7月1日現在、市内に住所または事業所を有し、令和5年度末まで営農継続の意思があること等の要件を満たす畜産経営体に対し、令和5年1月から3月までに納品された配合飼料の数量や肉用牛・乳用牛の飼養頭数に応じて給付金を支給するもので、6月の申請受付開始に向け準備を進めております。

#### **(5) 就学援助費受給世帯への支援事業**

物価高騰の影響により、日常生活の経済的負担が増加している就学援助受給世帯（「子育て世帯生活支援特別給付金」の受給世帯を除く。）に対し、児童生徒1人あたり3万円または5万円を給付するもので、9月の通知書発送に向け準備を進めております。